

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302511		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 陽だまり 1階		
所在地	福島県郡山市富田町字菱内32番地		
自己評価作成日	平成24年7月20日	評価結果市町村受理日	平成24年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田んぼを歩き来るカルガモ親子を眺める自然豊かな環境の中で、利用者様はのんびりゆったりと生活されております。季節ごとの新鮮な野菜をホーム菜園で収穫し、好みのリクエストメニューで料理をし食卓を囲んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 同法人運営の近隣5事業所がボランティアの協力を得て、利用者、家族、運営推進委員、職員等、総勢300人が一堂に会して、盛大な七夕祭りを実施し食事や歌、カラオケ、踊り等を全員で楽しみ、参加者から大変好評であり来年から継続して開催していくこととしている。
2. 同法人のグループ会社が運営するデイサービス施設の休日を活用して出かけ、施設の広い共有空間等でのびのびと一日を過ごしている。気分転換と運動不足解消になり、利用者の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に「理念」を復唱し、日常のケア等に理念を意識し実践できるように全員で取り組んでいる。	全職員が理念に謳っている「ありがとう」の心でケアにあたっており、理念は毎日唱和し共有している。常に職員間で話し合いながら理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地区の早朝奉仕作業やお祭り等に参加している。また地区幼稚園児の訪問で交流もし、日常的に交流が図られるようにしている。	地域行事・活動には積極的に参加し、交流している。幼稚園児との交流も盛んになっており、利用者の楽しみとなっている。また、ボランティアも多く受け入れ地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーでもある自治会会長のはからいで、ホーム便りの回覧や行事の案内もし、地域の方々との交流を図れるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や課題を検討し、提言や意見をスタッフ会議で討議し実践に向けた取り組みをしている。意見によっては、本社との協同で反映できるようにしている。	運営推進会議は定期的に開催し、委員は各分野から選任されている。提言や意見も多くあり、出された意見はスタッフ会議等で話し合い運営に反映させている、また、法人にも報告し全事業所で情報の共有をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員が定期的訪問や運営推進会議のメンバーとしても出席頂き協力関係を築いている。	市の担当者とは設立時より、様々な相談等を通して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当社の身体拘束、虐待防止コンプライアンスルールを全職員で周知し虐待防止マニュアルに沿ったケアを実践している。玄関等の施錠も昼間はしていない。	全職員が拘束のないケアに努めており、特に言葉による拘束には職員同士で十分注意しぬいながら実践している。日中は玄関の施錠はしていない。なお、今の季節は玄関戸を開け放しており、心地よい風が通っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内自主勉強会や研修を受講し理解を深め、コンプライアンスを遵守したケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があり、研修会の参加や、職員全員で勉強会を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明書に沿って全文を読みあげ説明し、不明な点は承り納得頂いた上で契約を執り行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意見は待たせずに素早く対応できるようにしており、家族面会時にホームへの要望や意見を承っている。	利用者の要望等は日々のケアの中で把握している。家族の意見等は面会時や受診後の連絡を通して把握しており、意見等はスタッフ会議で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社が定期的に管理者、職員の個人面談を実施し、本社への意見や要望を把握し運営に反映できるようにしている。定例スタッフ会議にも出席し運営に関する提案や意見を聞く機会を多く持つようにしている。	全職員が日常的に意見や要望を言える環境にあり、内容によっては管理者を介して法人に報告し、運営に反映させる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム査定や個人評価を実施し給与に反映させている。経験年数や資格に応じた社内研修や資格取得支援制度も利用できる社員のモチベーションアップに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修の受講する機会が増え、認知症の専門性を高める研修の機会を多く確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会が増えたことで、多業種、他職種のみならず同業者との情報交換や交流を通して、職員のケアの向上への取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	紹介頂いた事業所からの情報を収集し、実調時に本人の日々の生活のこだわりや健康面、意向等を聞き、まとめた情報をケース会議で全職員が共有し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心理面のサポートを最優先している。家族の全てを受け入れ傾聴し、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者からの情報を基に実調時に、本人と家族の意向を伺い、現在困っていること、必要としていることを確認し利用可能なサービスの助言を図るなど対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や日々の会話の中で知った情報や能力を生かして参加頂ける様に働きかけている。一緒にすることで共に支え、支えられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の誕生会やホーム行事に参加頂き、通院付き添いや健康状態が思わしくない時等ホームに泊まり込んでの看病も職員と一緒にし、家族の協力を得ながら良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会や兄弟姉妹との外出を楽しみ、電話をかけたたり、受けたりと関係を大切にしている。	利用者の近隣住民や友人の訪問があり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。中には友人同士が連絡を取り合い一緒に訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がお互いの居室に招き共に過ごし、おしゃべりや世話をし支え合い、相手を優しく気遣っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や転居された利用者様もホーム行事に招待し、家族と共に交流をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや願いを聞き出しやすい質問にし把握ができるようにしている。日常的に思いは変わるので、日々の変化に配慮している。家族にも伝え一緒に考え支援が出来るようにしている。	日々のふれあいの中から利用者の思いや意向の把握をしている。全職員が利用者の言葉や些細な変化も見逃さないようにしており、気がついた時にはメモをとり、スタッフ会議等で全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族より聞き取りをし、「暮らしの情報」に記入し、担当ケアマネージャーからの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活やペースを尊重し、体調の把握と本人の訴えを傾聴し、出来る事の継続を重視し支援を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞きケース会議で検討し介護計画を作成している。安全、安心な生活を優先し、モニタリングは状態変化時、更新時等実施している。	利用者、家族の意見聞きながら関係者で検討し、利用者の状態に即した介護計画を作成している。個別記録をもとに毎月のケース会議で計画の見直しをしている。また利用者の状態に変化があった場合には随時計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録、業務日誌に記入し、職員間で情報を共有している。記録はモニタリング時に報告し検討を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の暮らしの状況を家族面会時や電話で報告し、日々の中で生じた課題を検討し、必要なサービスを利用している。訪問マッサージ、介護タクシー、訪問看護、訪問理髪等利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会、老人会、民生委員、幼稚園児等をホーム行事に招待し、地域の方々の協力で安定した生活が継続出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時や看取り対応も出来るように、かかりつけ医から往診対応への変更を行っている。24時間安心な支援が提供できるようになっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族の希望に応じて対応している。なお、往診対応可能な医療機関に変更された利用者も多く、月2回の往診があり、適切な医療を受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師の定期訪問により、利用者の健康面やメンタル面での不安が解消されている。24時間オンコール体制にて利用者への支援も尚一層の充実が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、家族、医療相談員からの情報を得ながら早期退院に向けて相談をしている。長期化する場合は外泊を試みながら退院の準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初めての看取りも地域医療チームとの協働で行うことが出来た。看取りへ向けての往診体制の充実化と家族への意思確認も契約時と主治医からの指示があった時点で執り行っている。	重度化した場合における指針をもとに、家族の同意を書面で確認している。利用者が重度化した場合には家族、医師、看護師、職員等関係者が情報の共有をして実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署主催の救命講習を受講し、利用者の急変時に実施し救急搬送に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立会で避難訓練を実施している。また、毎月ホーム独自に計画した防災訓練計画にそって訓練を実施している。	防災訓練は年間計画しており、月1回通報訓練、避難訓練、夜間対応、伝達訓練等と重点的に訓練を実施している。内容もいろいろな場面を想定した実践的な訓練となっている。非常時の食料品等も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーやプライドに配慮しながらケアにあたっている。職員間で言葉使いに注意しつつ対応している。	一人ひとりに程よい距離感で本人の気持ちを大切に考え、利用者にとった言葉かけをしている。利用者の情報収集とその取り扱いは適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声かけをするように心掛け支援している。また、本人の希望や思いを聞くようにコミュニケーションの機会を多く持てるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを尊重しその時の体調や気分に応じて、希望を取り入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや希望に応じ一緒に選び、髪のカットやパーマは家族や知人に依頼し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ホーム菜園の手入れから収穫まで利用者と一緒に、調理の下準備等出来る所をお手伝い頂いている。職員も食卓を共に囲み、楽しい時間となるよう支援している。	季節感のある食材を使い、ユニットごとに調理されている。利用者は準備や後片付けも職員と共に行っており、一日の大切な活動となっている。職員も利用者と一緒に食卓を囲み、会話しながら和やかな楽しい食事の時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の疾患や主治医の指示のもとに食事制限や禁止食品の管理をしている。食事、水分摂取量確認し、その都度の状態や体調に合せ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいは欠かさず行い、義歯は入床前に預り洗浄剤に浸け清潔が保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の尿意や便意を大事にし、トイレで排泄できるように支援している。排泄パターンを活かしトイレの声かけを行なっている。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、本人の訴えを表情からも察知してトイレ誘導を行っている。プライバシーを大事にし、安心して排泄できる環境作りに努めている。現在おむつ利用者はなく、リハビリパンツやパット対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ったり繊維質の食品、乳製品で対応している。自然排便を心掛け支援し、軽い体操も行うなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞きながら入浴時間、曜日を決めている。入浴剤を使用し温泉気分にして頂けるようにしている。	いつでも入浴可能な環境となっており、本人の希望や体調に合わせて入浴の支援をしている。現在入浴拒否者はなく、全利用者が入浴を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休息でき落ち着ける所で休んで頂けるようにしている。また、日中の活動を声かけし夜間安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の内服薬について職員全員が理解に努め、入居者の体調管理に役立てている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、個々の持てる力を発揮して頂いている。畑仕事、掃除、他者のお世話役等毎日の仕事を継続し役に立っている喜びが感じられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園を散歩したり、受診の帰りに買い物や外食に行くなどしている。家族や知人、親戚との外出もいつでも行けるように支援している。	事業所では外出の行事計画(お花見、紅葉狩り、桃、リンゴ、梨狩り等)を数多く企画し実施している。また、家族等の協力を得て外出の支援もしている。散歩や買い物へは希望により支援し、気分転換やストレス解消になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預りホームで管理している。買い物時や外出時に本人が支払う機会を設け、職員が見守りし使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望時に電話対応やお手紙を送るなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間眩しくて寝れない方には明かりがもれないよう窓を布で覆うなどしている。リビングに季節の花や折り紙細工等飾り季節ごとの、雰囲気を感じられるようにしている。	ユニット毎に工夫がみられ、利用者の手作りの作品が飾られており、温もりのある共有空間となっている。また、照明や室温等に気を配り、心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でくつろいで過ごせるようにソファやテーブルの位配置を変えたり、居室へ招いたり一緒にベッドで休んだりと思ひ思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	家族の協力を得て本人の馴染みの物を置いたり、大切にしている家族やペットの写真を飾っている。思い出の品があることで心穏やかに過ごされている。	今までに使い慣れたもの、馴染みの家具を配置し、写真や思い出の品物が持ち込まれおり、自分らしい居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合せ、手すりを設置し、ベッドの高さや家具の配置を検討し安全に快適に過ごして頂けるようにしている。		